

関西大学 初等部
2016 年度学校評価報告書



2017 年 3 月

目 次

1. 本校の概要.....	1
2. 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策.....	1
3. アンケートの実施状況について.....	11
4. アンケート結果の分析.....	11
5. 学校関係者評価委員会からの評価結果.....	13
6. 校長の意見書.....	15
7. アンケート結果.....	15

1 本校の概要

(1) 沿革

2010 年（平成 22 年）4 月、学校法人関西大学の初めての小学校として高槻市に開校、中等部・高等部とともに 12 年一貫教育を行う。学級数 12、児童数 370 名、教員数 33 名（専任 20、常勤 2、非常勤 11）である。

(2) 建学の精神、教育理念・教育方針・教育目標等

本学の教育理念である「学の実化」に基づき、学理と実際との調和を基本とする教育を展開し、「確かな学力」「国際理解力」「健やかな体」「情感豊かな心」を養い、高い倫理観と品格を備え「高い人間力」を有する人間を育成する。

校訓として「考動 ー学びを深め 志高一」を掲げ、めざす子ども像は「考える子」「感性豊かな子」「挑戦する子」としている。

2 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策

(1) 重点目標①：本校教育の柱である思考力育成の成果を教科学習等だけでなく、児童の生活においても反映させるよう努めること

達成状況の目安：(◎)大幅達成・(○)達成・(△)未達成・(×)大幅未達成

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 安定した学級経営と 学力向上</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣や学習規律の定着による安定した学級経営及び学習指導 (オープンスクール参加者対象アンケートの自由記述欄への各授業での子ども評価及び、保護者の学校評価アンケートの当該設問の肯定的回答80%以上) 校長による毎日の各学級回り（授業等参観） 	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>学級経営にあたっては、日常的な指導を通して基本的な生活習慣や学習規律の定着を図るとともに、連絡帳・学級・学年だよりに加え、学級・学年ブログにより家庭との連携を進めた。更には、日記やアンケートなどによる児童への内面的な指導にも努めた。各担任や教科担当と管理職の連携を密にし、児童・保護者・学級等の課題については早い段階で報告を受け、素早い対応に努めた。</p> <p>学力向上については、今年度も 12 年一貫教育の柱としている思考力育成を推進することにし、今年度は本校が思考力育成で位置づけてきた思考スキルについて再考を行い、子どもの思考を促したり、授業デザインの向上を図ったりする取組を進めた。</p> <p>ICT 環境の整備と ICT の活用については、児童の学びを深め、広げるために、ノートパソコン、iPad、電子黒板、実物投影機</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の学力の向上に資する教員の研究授業（全専任1回以上）・研究会（年15回予定）の実施及び教科会議等の月1回の実施 ・ 研究発表会の開催（2月4日） ・ 全国学力・学習状況調査結果（私立・国立小学校の平均点を上回る。） 	<p>等の機器を有効活用した。また、児童の学習活動の充実のため、各学年で外部人材の協力を得ている。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>出張、会議等で毎日とはならないが、機会あるごとに校長が各教室をまわり児童の様子、教員の指導状況を見ているが、いずれの学級においても安定した学級経営が行われており、児童が落ち着いて主体的に学ぶ様子が見られる。学校運営、生徒指導、教科指導面でも、月1回の定例会議を開き、情報交流及び指導の充実を図った。6月に実施したオープンスクール参加の受験対象保護者からも、どの学年の児童も主体的に学習に取り組んでいる、また、それを引き出す教員の指導力を感じるなどの感想をいただいている。保護者アンケートにおいても、学級経営・学習指導に関する項目全てで90%以上の肯定的評価をいただいた。また、今年度も校長を除く全教員（専任・常勤）がのべ20回以上の研究授業を行い、放課後に必ず授業研究会を実施した。その際、校外からも積極的に指導者（今年度は6名）を招聘している。実践・研究のまとめとして2月に第7回の研究発表会を開催し、全学級2コマの授業、中等部においても、1年生と2年生による『考える科』の授業を公開するとともに、授業協議会、外部指導者によるシンポジウム・講演を実施した。今回も、文部科学省関係者、マスコミ等を含め全国から850名の申し込みがあるなど、高い評価を受けた。また、日常の学習活動にもゲストティーチャーとして、国際交流関係者、助産師、保健所、警察署等々、多様な職種の方の支援を受けた。</p> <p>これまでの思考力育成の結果として、昨年を引き続き文部科学省の全国学力・学習調査において、全体平均はもちろんのこと、私立・国立小学校の平均点を上回ることができた。生活面においても大きな問題事象が発生しておらず、保護者からの要望等については、担任、学年団で対応できている。また、通院を要するようないけが等の発生も一昨年、昨年比して減少していることから、思考力育成の取組の成果が、学習面のみならず、生活面にも表れ、児童が主体的に考え判断する「考動」につながっているのではないかと考えている。</p> <p>ICT関連としては、今年度アップル社が教育へのICT活用に関して取り組んでいる『Apple distinguished program』の認定を受けた。</p>
---	---

	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>学力向上の柱となる思考力育成の研究は今年度で7年目を迎えている。本校の研究内容は、公表された新学習指導要領の方向性と合致することが多く、継続して実施していきたいが、教科指導における思考スキルのとらえ方については、教員による把握の違いもあるので、今後も論議を続けていきたい。</p> <p>学力状況の客観的指標である文部科学省の学力調査については、今後も現在レベルの成績を維持するため、基礎基本の定着や児童の実態に応じた個人指導も充実させたい。</p> <p>また、児童の生活面については、学年団の教員が密に連絡を取り合うとともに、管理職への報告や、現在実施している、職員会議等での児童の実態共有の場の設定を継続し、不登校気味の児童等について、学校全体で情報を共有し対応にあたりたい。</p> <p>ICT活用については、学びの充実のために取組を進めるがその活用方法、情報モラルについては、十分に検討しながら児童への指導を進めたい。</p>
<p>イ 図書館教育の充実</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館司書との連携による読書・資料活用促進（個人の各月読書冊数の一覧表作成、中学年以上を中心に、各授業等での活用のための学年への資料本（数十冊単位）貸し出し） 読書講座を各学年1回以上実施 読書メソッドの活用（ブックトーク、アニメーション、リテラチャーサークル、ビブリオバトル等を学年に応じて実施） 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>思考力の基盤の充実と伸長のための読書活動充実に向け、各児童が借りた本の一覧を作成し、日頃の指導に役立てている。図書授業では、読書に加え、図書館司書による読み聞かせを行うとともに、リテラチャーサークル等の実施や調べ学習における資料の活用等、情報活用能力の育成にも努めている。今年度は各学年にブックトラックを用意し、読書や調べ学習の充実を図っている。また、今年度も若手数学家による数学教室等を開催した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (◎)</p> <p>図書室の読書スペース「わくわく館」と学習スペース「はてな館」を目的に応じて活用し、低学年では毎朝ほとんどの児童が本を借りにくるなど、活用頻度は高い。2月末までの本の貸し出し数は、全学年で約41,000冊で、そのうち約三分の一は1年生となっている（1年 13,178冊 2年 5,575冊 3年 5,948冊 4年 8,785冊 5年 5,868冊 6年 2,270冊）。司書による読み聞かせについては、低学年だけでなく、高学年の国際理解教育に関わる本を選定し読み聞かせを行うなど、学習単元に応じて実施している。また、各学年にブックトラックを設置し日常的に本に触れるようにしたことで、児童の読書やその後の学びに対する意欲向上につながっている。読書メソッ</p>

	<p>ドについては、本に対する興味・関心を高めるとともに、児童の思考を促す取組としても有効であった。数学家による講座は高学年児童の算数の取組にも活用した。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>思考力育成の土台となる基本的な語彙や知識の獲得は、計画的な図書館教育によって支えられており、読書指導、情報活用力の育成両面から次年度も継続して取り組みたい。貸出量については、今年度も低学年と比較して高学年の数値が下がる傾向にある。これについては、昨年度、外部評価委員より指摘があったが、ページ数や文字数等も関係するので単純比較はできないと考えており、今後、日常の読書量、読書内容、また資料活用について司書と連携して指導・支援をすすめるとともに、積極的な図書館活用につながる啓発を行っていききたい。また、これまで実施してきたゲストティーチャーによる講座については、今年度、本校の図書館司書による取組に代える方向としたが、児童の実態に応じた読み聞かせ、読書支援、資料活用等を推進できた事は効果的であったと考えている。算数科の学習とは異なる視点による若手数学家の指導は、高学年児童の知的関心を高めており、他校にはない独自の取組として次年度以降も可能な限り継続していききたい。</p>
<p>ウ 国際理解教育の推進</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語圏、アジア圏の国々との積極的な交流 ① 各学年（2年生以上）の国際交流取組の生活科・総合的な学習の時間への組み込み ② 交流国、交流内容に応じたテレビ会議を、各学年3回以上実施 ③ 英語教育との関連づけ (テレビ会議、修学旅行等の交流に合わせたコミュニケーションスキルの習得機会を3～10コマ設定) 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>今年度は、2年-韓国 3年-中国 4年-台湾 5年-オーストラリア 6年-インド・フィリピン・カンボジア・オーストラリアとの交流を行った。テレビ会議システムにより直接交流をしたり、学習成果物の交換をしたりしている。その際、部分的に英語で質問や挨拶ができるよう、英語の授業の中で、学年の実態に応じた学習を展開している。</p> <p>また、6年生は英語学習のまとめも兼ねて、10月にオーストラリアへの修学旅行を実施した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (◎)</p> <p>テレビ会議については、交流相手校や組織と連携し、少なくとも各学年で年3回以上実施できた。直接交流することにより、児童が自分の役割に応じて練習した内容で、海外の友だちと簡単なコミュニケーションをとることができ自信を持つことができた。また、それにより、外国に対する関心を高めることが出来た。6年生の修学旅行は、オーストラリアでの学校交流やホームステイがコミュニケーション力育成のきっかけと</p>

	<p>なる貴重な経験となっている。更に、6年生は、インド・フィリピン・カンボジアとの3カ国の子どもたちとの交流を行ったり、自分たちにできる支援について考え取組を進めたりし、保護者にも呼びかけてバザーを開催し具体的な支援につなげた。</p> <p>これらの学習を、2年生では生活科に、3年生以上では総合的な学習の時間に位置づけ、学年に応じた内容、時間を設定し継続的に取り組むことができた。</p> <p>英語教育においては、会話中心の指導に加えて思考スキルを活用した学習方法の研究も行うとともに、1年生から4年生までは英語劇等の保護者向け発表会を開催している。また、国際交流や修学旅行実施にあたって、英語によるコミュニケーション力向上のための学習を、学年に応じ4～10コマ実施した。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>現在実施している各学年の国際交流の取組は軌道に乗っているが、テレビ会議等、ICT環境を活用しながら効率的な時間、内容の検討とともに、近年の世界情勢等を勘案し円滑な連携ができるよう考えていきたい。また、次年度も6年生の英語研修旅行先としてオーストラリアを予定しており、学校交流やホームステイ等、今年度以上に円滑な交流を図りたい。</p> <p>英語教育については、コミュニケーション力の育成と思考スキル育成との関連について引き続き検討をする。</p> <p>教育課程外の取組である夏休みを利用した海外のサマースクールについては、保護者のニーズ等と関連させて実施について検討していきたい。</p>
--	--

(2) 重点目標②：良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全教育活動を通じて推進すること

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 生徒指導・人権教育の充実</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校全体で児童を指導・支援する体制の確立(年度当初の『子どもを語る会』実施及び児童の情報交流を毎月実施) いじめ問題・不登校等への対応など生徒指導に係る校内体制の確立(生徒指導連携会 	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>今年度も、生徒指導部、健康教育部、教務部の各主任と、当該学年主任・担任からなる生徒指導連携会議を生徒指導の中核とした。また、「子どもを語る会」、毎月の職員会議における各学級の状況報告により、子ども理解について教員全体で共有するとともに、保護者に対しても年度当初に「学校のきまり」の冊子を配付し、生活指導全般に対する協力を依頼した。いじめ・不登校問題への対策については、管理職を含む「いじめ・不登校対策委員会」を設置し、必要に応じて円滑な対応ができる体制を整えている。</p>

<p>議及び、いじめ・不登校対策委員会実施による早期発見・早期対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権教育の教育課程への位置づけ(全児童対象の人権教育講演会を1回実施) 	<p>人権教育に関しては、意識を向上させるため学年カリキュラムを作成し、計画的に実施するとともに、人権教育講演会を実施した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>事象や情報の把握については、教員による日常的な児童観察の他、年2回の児童生活アンケートや校長による年3回の「がんばりましょうカード」の取組実施、児童連絡帳や懇談会等での保護者との連携により把握を図っている。「子どもを語る会」については、年度当初に加え年度末にも実施し次年度への引き継ぎを行った。「その日の問題はその日のうちに解決」をモットーに、担任を中心として電話、連絡帳により家庭との意思疎通を頻繁に図っている。今年度、いじめ問題は生起していないが、不登校傾向のある児童は数名おり、担任だけが抱えることなく連携会議を招集するなど、学校全体で未然防止・早期対応に取り組んでいる。不登校対策については、ミューズキャンパスのスクールカウンセラーとの連携も行っている。人権教育講演会としては、オリンピックでも活躍された全盲のアスリートを招聘し、全児童に障がいについての具体的な話をさせていただいた。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>携帯電話の使用については、登下校中(特に下校時)に些細な事で保護者との連絡(保護者からの連絡もある)に使用する実態があり、引き続き児童への指導と保護者啓発を進めたい。</p> <p>生徒指導全体で見れば、今年度も毎月の職員会議での報告事案は少なく、安定した教育活動が行われていると考えられるが、生活規範や規律性の定着のためにはこの状態を次年度以降も継続していかなければならない。</p> <p>また、各学級・学年内での人権事象等は生起していないことは、日常の指導や人権教育講演会等の行事開催の成果と言えるが、今後も、教員自身の人権意識向上、学校体制の更なる確立を図っていく。</p>
<p>イ よりよい学校生活を築く態度を育成する特別活動の推進</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 集団への所属感や望ましい 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>学校全体の行事として、運動会は6月、文化祭は11月に実施した。宿泊学習については、1年生から3年生までの高岳館を使った宿泊訓練、4年生のスキー合宿、5年生の南阿波体験学習、6年生の飛鳥合宿、オーストラリアへの修学旅行がある。</p>

<p>人間関係育成のための行事開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の自主性及び児童相互のつながりを育むための集団活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> 委員会・・・月1回実施 クラブ活動・・・年7回実施 全校たてわり活動 <ul style="list-style-type: none"> ・・・年5回実施 	<p>集団活動として、全校たてわり活動を年5回、5、6年生による委員会活動、4年生以上によるクラブ活動を実施した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (◎)</p> <p>運動会、文化祭は児童の祖父母等の見学も多数あり、両方とも大盛況であった。宿泊学習については、学年に応じたねらいを設定し、児童の自主性、集団力、基本的な生活習慣等の面で成果を出すことができた。たてわり活動については、高学年の児童の意識が高くなってきており、それぞれのグループでリーダーシップを発揮し回を追うごとに楽しい活動にすることができた。また、委員会活動については、5月に発足後、第1木曜日に活動を行い、委員会ごとに学校施設、教育活動、学校行事に係る奉仕活動を実施した。クラブ活動については、後期に発足後、月1回以上（今年度は計7回）実施し、文化系、スポーツ系ともに、児童が自主的、意欲的な活動を行うことができた。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>学校行事については、文化祭、運動会等において全児童が十分に力を発揮し、達成感を持ち自尊感情を高めることができたと考えているが、運動会の組体操については、その危険性を鑑み、無理な高さ、規模の演技を廃止、縮小して実施した。保護者にも事前に学校の方針を伝え理解していただいている。宿泊行事に関しては、オーストラリア修学旅行（5泊7日）について、テロ等の世界情勢を心配する声も一部にあるので、当該業者、関係機関とも連携しながら状況把握に努めたい。</p> <p>集団活動については、各教員が日常の学級指導を丁寧に行うことを更に意識し、たてわり活動の充実を図ることで学年間の結びつきを強めることができるようにする。また、クラブ・委員会活動に着いては、それぞれのねらいをより明確にし、児童の自主的な活動の充実を図る。</p>
--	---

(3) 重点目標③： 管理面・指導面について継続的に改善を図るとともに、中高等部・大学及び保護者との連携を意識した学校運営体制を整えること

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 安心・安全の学校生活を構築するための安全管理・指導</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の安全管理に関する定 	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>登下校のマナー指導や危機対応については、日常の学級指導の他に、全校集会で具体的な指導を継続して行い、意識の向上を図った。また、学校便り（初等部だより、生徒指導だより）により、安全に関する保護者啓発を進めることに加え、教育後</p>

<p>期的な訓練及び指導の実施 (年3回実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育後援会(保護者)との連携及び啓発 (地区委員会による通学見守り活動や啓発活動の実施) 	<p>援会の活動として、登下校見守り運動も行われた。</p> <p>また、新入生時の歩行の安全から、自転車の乗り方、安全マップ作り、更には情報モラルに及ぶまで学年に応じた計画を立てて指導を行っている。管理面では一斉下校指導、地震・火災等の避難訓練、緊急時の児童引き渡し訓練、不審者侵入対応訓練等を実施し、万全を期すよう努めている。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>安全管理部を中心に、児童への指導と安全管理面での取組が定着した。(4・8・1月 一斉下校指導 6月 引き渡し訓練 11月・1月 避難訓練) また、6月には救命研修及び不審者対応訓練も行っている。児童の意識向上(特に登下校時の公共交通機関のマナー、ルールの遵守)については、一般の方からのご指摘や苦情は数件あり、都度、直接指導や迷惑行為や危険の例を挙げ全体への指導を行ってきた。また、教育後援会の地区委員会主導による見守り活動及び啓発活動を実施していただいた。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>全教員の共通認識のもと、日常の学級指導や全体集会での指導等、粘り強く指導を進めるとともに、教育後援会の安全指導の取組の継続実施を依頼し、各保護者への啓発及び協力依頼も継続することにより、学校と家庭が一体となった安全管理及び児童の意識向上を図る。</p>
<p>イ 安心・安全の学校生活を構築するための給食・アレルギー対策の実施</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 業者及び保護者との連携によるアレルギー対策の徹底 (給食業者との月1回の調整会議を実施) 	<p>自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>給食については、業者側だけでなく学校側も管理栄養士を配置し、食品の安全管理や調理等に細かい指導を行っている。アレルギーをもつ児童に対しては、全教員が各児童の状況について認識するとともに、毎年、年度末に保護者からの児童の状況についての書類をもとに、次年度の対応策について確認している。</p> <p>【達成状況(Check)】 (◎)</p> <p>給食のアレルギー対策については、給食業者、管理栄養士、担任、養護教諭等の連携により対応できている。日常的な管理栄養士と業者の打ち合わせに加え、月1回、管理栄養士、養護教諭、事務室の担当と業者による会議を実施し、給食管理について調整、情報交換をしている。また、宿泊行事においては、事前に業者と密に連絡をとりあい、個々の児童の実態に応じた食事を用意している。</p>

	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>給食、宿泊行事におけるアレルギー対応については、今後も万全を期したい。また、エピペン持参の児童が昨年度より1人増え全校で6人となっているので、救急体制についても全教員で共通理解できるよう努める。</p>
<p>ウ より多くの出願をめざす入学試験の実施</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい入学試験内容・方法の確立 ・ 入試広報戦略の検討及び効果的な広報活動の実施 ・ 年4回の学校説明会、オープンスクールの実施 ・ 年50回以上の幼児教室訪問 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>受験保護者対象の説明会及び各幼児教室(塾)訪問と各教室主催の説明会での広報を継続して実施している。今年度も9月末に、1日でペーパーテストと行動観察を実施した。また、合格者対象の説明会、入学前のオリエンテーションを実施している。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>今年度は、出願数が減少し開校以来はじめて2倍を下回ったが、受験倍率については1.6倍と、昨年度は下回ってはいないものの、ここ3、4年の動向と変わらない数字となっている。事前の辞退が少なかったことは、本気度の高い層が出願、受験したということがいえる。</p> <p>学校主催の3回説明会では、本校の教育理念、教育活動の概要、入試に関する内容について説明するとともに、ミューズ学習、各教科等の授業内容についても担当教員が具体的な説明を行った。6月のオープンスクールでは、全学年の授業を公開することで、具体的な学びの姿を知ってもらうことができたと考えている。また、いずれの回においても、未就学児童(年長)対象の体験授業を実施した。幼児教室主宰の説明会を含め、参加状況はほぼ昨年度並みであったが、7月の入試説明会のみ参加人数が減少した。更に、平成30年度入学に向けた説明会を3月に実施している。</p> <p>幼児教室については、年度当初に主な幼児教室約30カ所を校長、教頭、広報主任が訪問し、広報用のちらし・ポスターを配布している。3月から8月にかけては、幼児教室主催の学校・入試説明会、11月から2月にかけては入試報告会において、校長が説明を行っている。(今年度は、2月末時点で20回参加。年度当初の教室訪問と合わせ、目標を達成している。)</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>説明会でのアンケート調査や各幼児教室の関係者からの情報では、他の私学にはない本校の思考力育成の取組には魅力</p>

	<p>を感じるという感想が多くあるが、それが出願、受験の人数増につながっていないことが今後の課題である。教育活動自体の更なる充実と効果的な広報活動について検討を継続する。</p>
<p>エ 中等部・保護者・大学との連携の充実</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 週 1 回の初中定例会議の実施 ・ 教育後援会との密な連携 (管理職、事務職、教育後援会役員・委員による月 1 回の実行委員会実施) ・ 教育活動の様々な分野における大学との連携(4年生社会・道徳の小大連携) 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>初等部と中等部の教頭、教務ミーティングを毎週実施し、連携行事や調整事項について協議するとともに、年度当初に初中全体会議を開催し、連携の重要性を確認したり具体的な教科連携会議について検討したりする場を設定している。</p> <p>保護者との連携では、前述のとおり日常的に学校と家庭が密に連絡を取り合う体制をとっている。また、教育後援会には、登下校の安全ポスターや駅等での見守り、新入学児童への支援、初等部専用グッズの製作・販売、餅つき大会や研究発表会のお手伝い等、まさに献身的に支えていただいている。関西大学からは、研究や授業への指導・協力、研究発表会への応援、留学生の紹介、国際交流支援等を受けている。また、4年生の大学創立に関する学習で、実際に千里山キャンパスを訪問し博物館での講話を聞いたり、キャンパス探検をしたりするなど、大学への帰属意識を向上させる取組も実施している。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>初中連携については、定例ミーティングによりスムーズに連携行事を実施することができるようになっている。同一キャンパス内に小学校、中学校、高等学校があることで、教育活動の時間・場所の制約もあるが、このミーティングが調整機能を十分に果たしている。ただ、初等部と中等部との学びの連携については、各教科等の継続的な初中連携会議の実施に課題があり、保護者への内部進学情報提示についても、今年度中等部から提供する情報についての検討を加え改善をはかったが、保護者アンケートにおいて中等部関係の項目の評価は肯定的評価が 59%と、全項目の中で最も低い評価となっている。</p> <p>保護者との連携については、学校との信頼関係を築くことができているが、携帯の使用、車使用等、保護者自身のマナー等についても課題が見られる。</p> <p>大学との連携については、本学教授より本校の実践・研究に継続的に指導助言をいただくことで研究推進に大きな力となっている。また、国際理解教育におけるアジアの国々との交流等に、学部生、大学院生等の協力を頻繁に受けている。</p>

	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>初中連携について、管理職間の協議の場で課題の共通認識と方策について検討する機会を更に増やす。保護者への情報提供については、情報提供の場を増やすなどの量的な改善だけではなく、質的な改善について検討を進めたい。</p> <p>保護者連携については、学校と家庭との連携とは別に、保護者同士の円滑な関係づくり、連携やマナーについての啓発を教育後援会との連携により進めていきたい。</p> <p>また、大学との連携については、教員の指導力向上や児童の学習活動充実のために、更なる連携を検討していく。</p>
--	--

3 アンケートの実施状況について

保護者アンケートは1月26日(木)から2月2日(木)、教員は2月9日(木)から2月15日(水)、児童は2月8日(水)に実施した。保護者アンケートの回収結果は、全保護者370名中307名、回収率83%である。1年生から5年生までは、ほぼ昨年通りであるが、6年生の回収率が下がっていることが影響している。また、今年度も記名による回答も可能としたが、記名率は83%となり、昨年より更に記名回答が増えている。

教員アンケートは専任20名、常勤講師2名、非常勤3名、計24名から回答があった。専任の回収率は100%である。また、児童については、今年度は4年生から6年生を対象とし、回収率は100%である。

アンケート項目・内容については、教員40項目、保護者32項目とし、例年と同じく観点を揃えて対比させた。

評価については、3種類のアンケートとも4段階評価にし、「よくあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」を選択させるようにした。

項目・内容については、いずれも職員会議で検討・承認されたものである。

4 アンケート結果の分析

ア 教員・保護者アンケートについて

全体を通して、保護者の評価は肯定的評価が90%を超えるものがほとんどであり、これまで進めてきた初等部の教育活動に高い評価をいただいたことは学校にとって非常に嬉しい結果であると考えている。一方で、教員の評価は下がっている項目が多い。アンケートの母数が21名と少ないため、1～2名の回答が割合に大きく反映されるということはあるが、次年度に向けた課題として教員が厳しい自己評価をしていると捉えたい。課題のある項目については職員会議等で共通理解し、全体で検討を加えたい。以下、いくつかの項目についての分析を述べる。

No. 1は本校の私学としての独自性・認知度を、No. 2・3は初等部教育全体に対する納得度・満足度を尋ねているが、保護者についてはいずれも肯定的評価が98%で非常に高い評価となっている。教員については、No. 2(他小学校に負けない教育)が100%と上がっているが、No. 1・3の評価が下がっている。No. 1については、「学の実化」と本校教育のつながりについて

再確認することが必要だが、No. 3の「一人ひとりが大切にされる学級づくり」については、教員として厳しい自己評価をしていると考え、次年度の教育活動にいかしていきたい。

No. 4からNo. 15（保護者はNo. 9、10は無し）までは、学級経営・学習習慣を基本としてどのような学力向上策がとられたかについての項目である。保護者評価は、肯定的評価がいずれも90%を上回っており、初等部の授業、取組に対して満足してもらっていると考えている。教員評価は、今年度は肯定的評価が昨年度を下回っている項目が4項目あり、学習規律の定着と思考力育成のための授業力向上について教員が課題としていることがわかる。次年度にいかしたい。また、No. 9の中等部とのカリキュラム連携については、昨年度より更に評価が下がっている。中等部との協議だけでなく、初等部のカリキュラム編成についても検討課題としたい。

No. 16は教育内容の発信に関する項目であるが、教員の評価が下がっている。入試広報戦略にも関わることであるので、担当部署を中心に検討を進めたい。

No. 17～21は生徒指導及び特別活動に関する項目である。No. 17の基本的な生活習慣の指導については昨年度と同じ評価であるが、18、19の項目が下がっている。生徒指導部会及び連携会議を中心に、指導の充実と校内体制の更なる活性化を図りたい。クラブ、委員会活動については、特に、委員会活動において児童の自治意識、人間関係の向上を図るような内容を検討していきたい。

No. 22～25の道徳教育、人権教育に関する項目については、保護者の評価はどの項目も昨年度と同様に高い評価をいただいているが、教員の方は、道徳的価値や実践力の育成、人権教育全般についての評価が低くなっている。道徳、人権教育の学年毎のカリキュラムは作成しているが、その内容について精査していきたい。

No. 28からNo. 32（保護者はNo. 28、30無し）は安全管理に関する項目である。教員、保護者とも高い評価になっているが、教員評価No. 30の「児童自らの危機回避能力の向上」の項目については課題があると捉える教員もいるので、安全部会で指導内容を検討したい。

No. 33、34、35（保護者はNo. 34無し）は教員研修に関する項目である。保護者評価はいずれも高く、児童の学力向上の背景に教員の研修があることを認識している。教員の方も、思考スキルを取り入れた教科指導の項目がやや下がっているが、研修については肯定的評価が100%となるなど、手応えを感じていることがわかる。

No. 36は進路指導、特に保護者に向けた情報提供に関する項目である。本校の学校評価の中で、この項目が教員、保護者とも肯定的評価の最も低いものとなっている。今年度、中等部とも協議し、内部進学説明会の内容等を改善した結果、保護者からはわかりやすくなった旨の感想をいただいていたが、中等部の学校生活や学びについて、まだまだ理解していただけないことがこの結果に結びついていることを真摯にとらえ、更に中等部と協議を進めたい。

No. 37（保護者は無し）は入試・広報に関する項目である。肯定的評価が100%となり、今の入試広報戦略について各教員が評価していることがわかるが、厳しい私学情勢の中、次年度も検討を加えていきたい。

No. 38（保護者は無し）は関西大学との連携に関する項目である。昨年より肯定的評価が増えているのは、本校の校内研修に対し頻繁に指導に来ていただいている黒上教授のおかげだと考えている。

No. 39、40の教育後援会との連携及び学校と家庭との連絡や相談に関する項目については、

教員、保護者ともに90%をこえる高い評価になっており、学校と家庭の意思疎通がほぼ円滑に行われていると考えられる。

イ 児童アンケートについて

今年度より、アンケート対象を4年生から6年生までに拡大し、内容も一部変更して実施した。4年生は64名、5年生は64名、6年生は62名となっている。

全体的に見ると、ほとんどの項目で肯定的評価が90%を超えており、概ね、どの学年の児童も学校生活や自身のがんばりを評価していることがわかる。肯定的評価の比較的低かった項目については、今後の指導にいかすとともに、中等部への正確な情報提供を行いたい。

No. 1 No. 2は、初等部での在籍及び学校生活の評価であるが、いずれも肯定的評価が99%と高い評価をしており、初等部生の誇りを持って充実した学校生活を送ることができたと思われる。

No. 3の勉強意欲(勉強をがんばっていますか)の項目は、昨年度より評価が上がっている。

思考力がついたかというNo. 4の質問とあわせ、初等部の学びに対して、また自身のがんばりに対して評価をしていると考える。

No. 5は教員の授業評価の項目である。95%と高い評価になっているものの、これは教員にとって肯定的評価が100%に近づいてほしい項目である。

No. 6は読書や資料活用に関する項目である。肯定的評価が90%を超えているのは、読書そのものだけでなく、調べ学習における資料活用の機会をしっかりと持つことができたことが大きいと考える。

No. 7はICT活用に関する項目である。学年に応じて、学びにいかしていることがわかる。

No. 8は運動会や文化祭などへの参加意欲に関する項目である。昨年度に続いてほとんどの児童が肯定的な評価をしており、主体的に行事に取り組めたことを示している。

No. 9は基本的な生活習慣に関する項目である。この項目は学年に関係なく、各児童が意識して学校生活を送ることができたのではないかと考えるが、10項目の中で否定的な評価が一番高い(9%)ので、更に指導・支援を進めたい。

最後の項目は、いじめやなかまはずれに関する項目である。ほとんどの児童が肯定的評価をしているが、次年度、更に生徒指導面、児童理解面を充実させたい。

5 学校関係者評価委員会からの評価結果

(1) 自己評価の結果を受けて

ア 重点目標①【本校教育の柱である思考力育成の成果を教科学習等だけでなく、児童の生活においても反映させるよう努めること】について

- ・ICT機器について、どれくらいの割合の児童が関わっているか？キーワードを入力するだけで検索ができ、便利なツールではあるが、本を読み調べる、という行動をしないといけないと感じている。大学生でも同様の課題を感じるところであるが、本を読む、直接資料で調べることが大切である。
- ・ライブラリの司書が、各学年に応じた読み聞かせをする(6年生において読み聞かせを実施した時、国際理解に関する書籍を選び、単なる読み聞かせだけではなく、学ぶ意欲・関

心を高めるきっかけとなっている。)ことは意義深い。

イ 重点目標②【良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全教育活動を通じて推進すること】について

- ・アンケート項目の No.24「国際交流を通じて、国籍・人種などの違いを認め合う教育を積極的に行っていると思われるか」と No.25「学年に応じて、社会における人権問題に関する教育を行っていると思われるか」などの、人権教育に関する項目について、保護者の否定的評価が3%、9%と他の項目と比較すると低い評価となっているので、取組を充実させる必要がある。また、No.18「いじめや不登校が起こらないように取り組んでいると思われるか」も保護者の否定的評価が7%となっており、人権教育と道德教育の関わりを充実させる必要がある。

ウ 重点目標③【安全管理・給食・入学試験・中等部との連携・保護者連携等の学校運営体制を整えることについて】について

- ・初等部と中等部との連携について、話し合いの場を設定されているが、より積極的に関わり、保護者に対しても、更に具体的な情報発信をすることが必要である。
- ・初等部、中等部、高等部は、校種は違っても12年一貫の教育目標に基づいて教育活動を進めているはずである。初中連携会議だけではなく、教員同士が結束を強め、初等部・中等部がうまく接続できるような仕掛け作りが必要である。初等部と中等部間が円滑な接続になるよう、お互いに理解を深める努力は必要である。授業についての交流等、お互いの歩み寄りも必要である。
- ・2020年に大学入試改革が行われ、大学入試が変化しているため、中等部・高等部以外でも思考力育成に注力している学校は多い。初等部では、開校以来、思考力育成の取組を先進的に進めているので、中高等部への接続を更に重視してほしい。
- ・初等部から中等部へ進学しない生徒がいることは課題であり、中等部に進学することのメリットや中高等部の教育活動について更に情報発信を進めることが必要ではないか。
- ・安全指導について、児童の下校時に、保護者にも協力を依頼してはどうか。学校の取組の理解を深めるきっかけにつながるのではないか。

(2) アンケート結果について

- ・アンケートについて、全体的に、保護者からは90パーセント以上の高評価を得ている一方、教員からは厳しい評価である。教員が、学校及び自身の教育活動を真摯にとらえていることは、初等部の将来にとって良いことだと捉えている。
- ・No.36「中等部進学に向けて必要な情報を得ることができたか」については、保護者からは厳しい評価となっている。内部進学説明会等、情報提供そのものだけでなく、思考力育成の取組についても、初等部と中等部で内容検討を進め、連携を深めていくことが重要である。

[学校関係者評価委員会委員名簿]

氏名	所属及び役職
五十嵐 昭 夫	高槻市古曾部町自治会 会長
山 崎 勝 久	元関西大学初等部教育後援会 顧問
小 澤 守	関西大学社会安全学部 教授 ※評価結果とりまとめ執筆者
田 中 達 也	関西大学初等部 校長

6. 校長の意見書

関西大学初等部

校長 田 中 達 也

開校から7年。開設準備にあたった教員の多くが定年退職したことで、学校づくりとしては第2ステージに入っており、そういう点で、保護者・児童によるアンケート結果や学校・教育活動評価や学校関係者評価委員の皆様からいただく貴重なご意見は大変ありがたいと考えている。

今回も、校長としてまず注目したのは、保護者アンケートの「保護者としてお子さんを関西大学初等部に入学させて良かったと思われますか」、児童アンケートの「初等部に入学して良かったですか」の設問である。今回もこの項目の肯定的評価が非常に高い割合を維持していることは、学校として大変嬉しい結果であり、日々の教育に真摯に、また熱意を持ってあたった全教職員と、深い理解をいただいた保護者の方々に感謝したい。

学習指導面においては、思考力育成を柱とした本校の取組が在校生の保護者のみならず、オープンスクール等での受験層保護者からも高い評価をいただいております。日々の教員の学習指導が実を結びつつあることを感じている。ただ、各教科等のカリキュラム作成については、中等部との協議を継続し、今後更に検討、修正を加えていかなければならない。

生活指導面においては、各教員による各学年・学級の安定した経営のもと、児童は落ち着いて毎日の学校生活を送り、意欲的に学校行事に臨むことができたと考えている。縦のつながりについても、1年生と2年生、1年生と6年生等、日常の学校生活における連携だけでなく、全学年がふれあう機会も定期的に設け、児童相互の良好な関係づくりを進めることができたと考えている。児童の基本的な生活習慣、規範・人権意識等についても、着実に根付きつつあると考えているが、道徳や人権教育のカリキュラムについては、相互に関連させながら検討を進めていきたい。

最後に、学校関係者評価委員会の中でも話題となった中等部との連携・接続については、保護者からの厳しい評価が続いている。今年度も、中高等部の校長と協議する場を機会あるごとに設け、本校の5、6年保護者対象の内部進学説明会の内容に修正を加えるなどの改善を図ることで一定の評価をいただくことはできたが、初等部の児童が期待と夢を持って中等部に進学することができるよう、今後も、管理職及び全教員で課題を共有し、新教育課程の改訂も視野に入れながら、カリキュラムや授業デザインの改善につなげていきたい。

7. アンケート結果

2016年度 関西大学初等部学校評価アンケート質問項目（教師用／保護者用）

2016年度 学校評価アンケート 集計

2016年度 関西大学初等部学校評価アンケート質問項目（児童用）

2016年度 児童アンケート

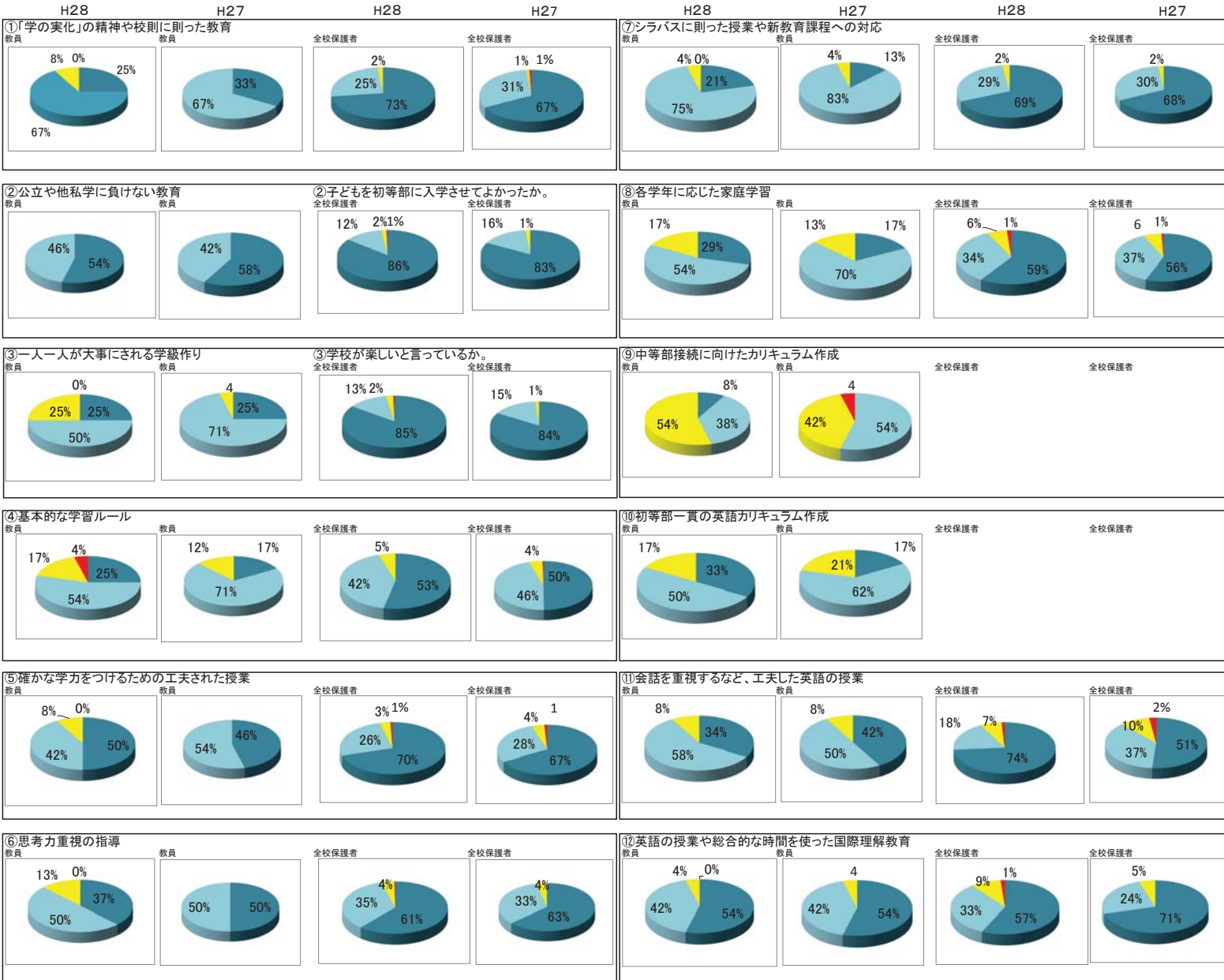
以 上

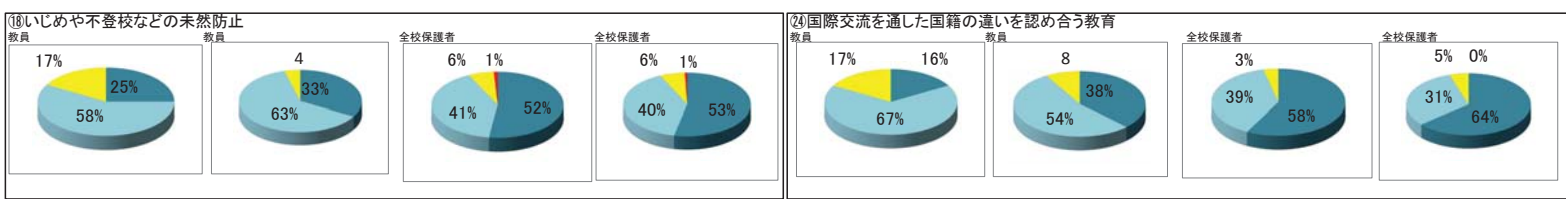
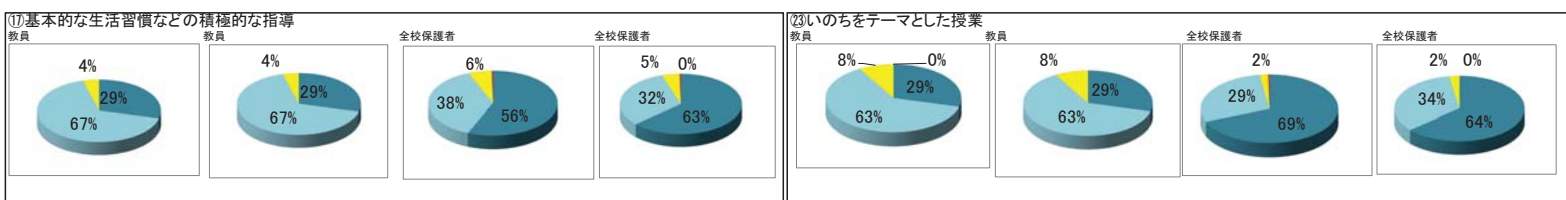
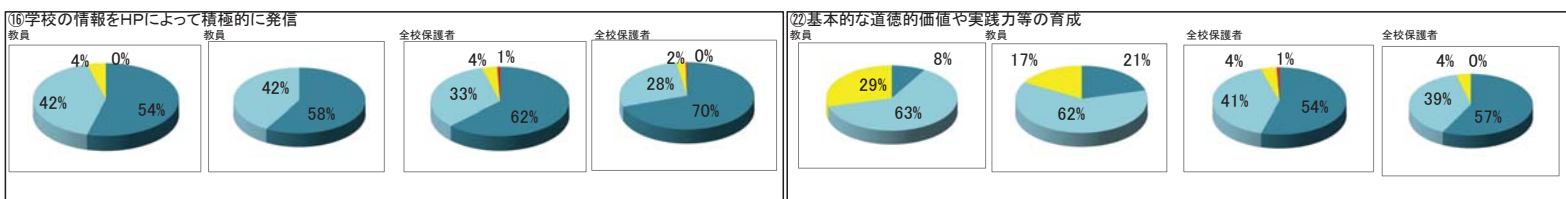
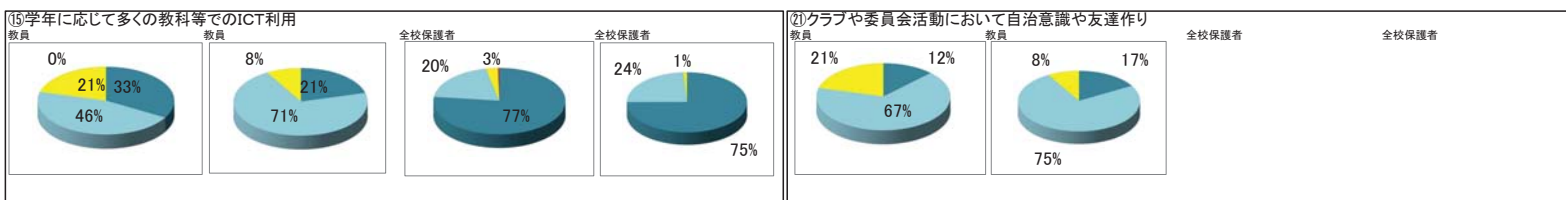
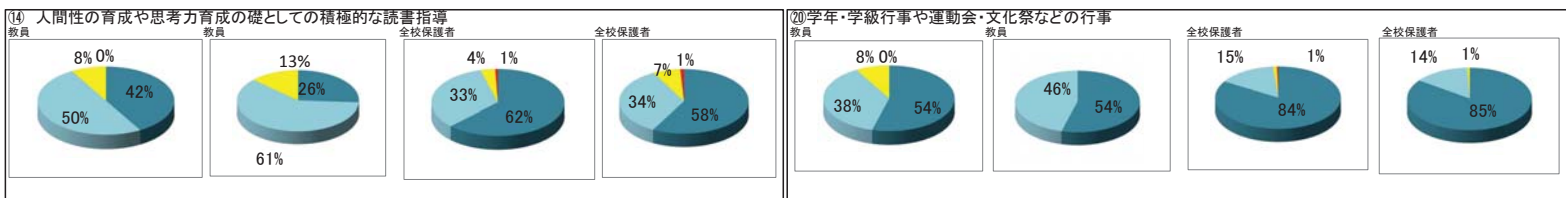
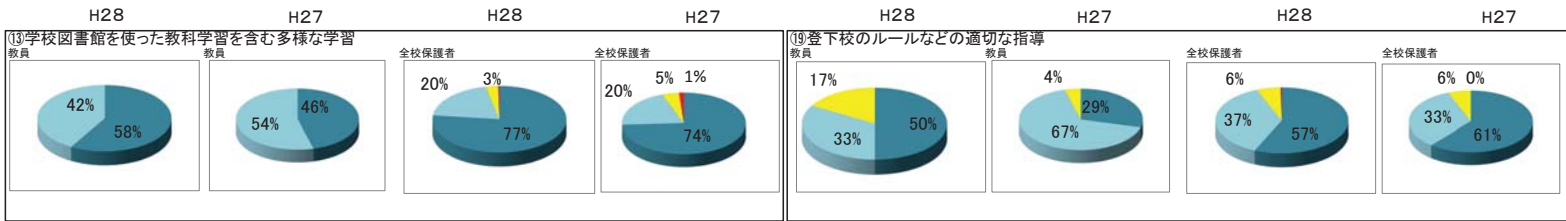
2016年度 関西大学初等部学校評価アンケート質問項目（教師用／保護者用）

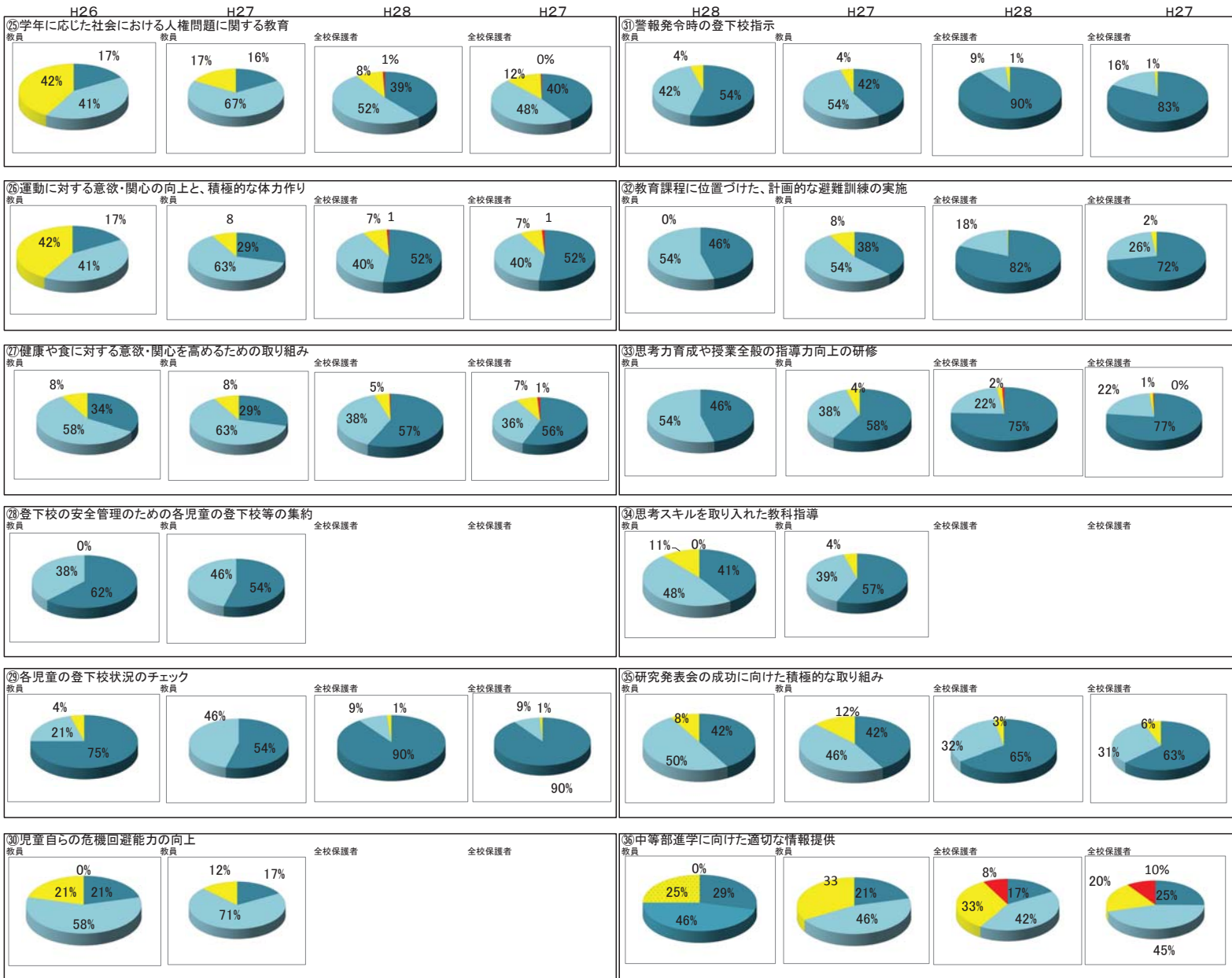
項目	教師用質問	保護者用質問
◎私学の独自性	①「学の実化」の精神や校訓に則った教育が行われている。	①関西大学の「学の実化」の精神や初等部の教育方針・校訓についてご存知ですか。
(教育方針)	②関西大学初等部では公立や他私学に負けない教育が行われている。	②保護者としてお子さんを関西大学初等部に入学させて良かったと思われませんか。
(1) 学級経営	③一人ひとりが大事にされる学級作りが行われている。	③お子さんは学校が楽しいと言っていますか。
(2) 学力向上	④基本的な学習ルールが学年に応じて身につけられている。	④お子さんの授業中の学習態度はきちんと身に付いていると思われませんか。
	⑤確かな学力をつけるための工夫された授業が行われている。	⑤学力をつけるために工夫された授業が行われていると思われませんか。
	⑥思考力重視の指導が積極的に行われている。	⑥どの学年でも思考力の育成を重視した授業が積極的に取り入れられていると思われませんか。
	⑦シラバスに則った授業や新教育課程への対応がなされている。	⑦シラバスや週案に対応した学習が適切に進められていると思われませんか。
	⑧各学年に応じた家庭学習が推進されている。	⑧学年に応じ宿題や自主学習等の家庭学習を積極的に進める指導を行っていると思われませんか。
	⑨中等部接続に向けてのカリキュラム構築に取り組んでいる。	
(3) 英語教育	⑩初等部一貫のカリキュラム作成に取り組んでいる。	
	⑪会話重視など、工夫した英語の授業がなされている。	⑪会話を重視しつつ、コミュニケーション技能の向上をめざした英語教育が進められていると思われませんか。
(4) 国際理解	⑫英語の授業や総合的な学習の時間を使った国際理解教育が推進されている。	⑫テレビ交流など、外国と積極的に国際交流を進めていると思われませんか。(2年～6年保護者のみ)
(5) 図書館	⑬学校図書館を使って教科学習を含む多様な学習が行われている。	⑬図書館では読書だけでなく、ミュージック学習等、多様な教育が行われていることをご存知ですか。
	⑭人間性の育成や思考力育成の礎として積極的な読書指導が行われている。	⑭読書の時間などを設けるなど、積極的な読書指導が行われていると思われませんか。
(6) ICT	⑮学年に応じて多くの教科等で計画的な利用がなされている。	⑮授業等で電子黒板やコンピュータ等の教育機器が効果的に活用されていると思われませんか。
	⑯学校の情報がHPや学年・学級通信等によって積極的に発信されている。	⑯HPや学年・学級通信・ブログ等から初等部の様子を知ることができていると思われませんか。
(7) 生徒指導	⑰基本的な生活習慣などの指導が積極的になされている。	⑰挨拶や返事等の基本的な生活習慣の指導が積極的になされていると思われませんか。
	⑱いじめや不登校などの未然防止に取り組んでいる。	⑱いじめや不登校が起こらないように取り組んでいると思われませんか。
	⑲登下校のルールなどについて積極的な指導を行っている。	⑲交通ルールやマナーの指導、集団下校指導(年3回)等、適切な登下校指導が行われていると思われませんか。
(8) 特別活動	⑳学年・学級行事や運動会・文化祭などの行事に積極的に取り組んでいる。	⑳学年・学級行事や運動会・文化祭などの学校行事が積極的に行われていると思われませんか。
	㉑クラブや委員会活動において自治意識や友だち作りを図っている。	
(9) 道徳教育	㉒基本的な道徳的価値や実践力等の育成を積極的に図っている。	㉒授業や多くの機会を通じて道徳心の育成を積極的に行っていると思われませんか。
(10) 人権教育	㉓「いのち」をテーマにした授業に積極的に取り組んでいる。(健康教育とリンク)	㉓学年に応じて「いのちや成長に関する授業」に積極的に取り組んでいると思われませんか。
	㉔国際交流等を通じ国籍などの違いを認め合う教育を積極的に進めている。	㉔国際交流等を通じて、国籍・人種などの違いを認め合う教育を積極的に行っていると思われませんか。(2年～6年保護者のみ)
	㉕学年に応じて、社会における人権問題に関する教育を進めている。	㉕学年に応じて、社会における人権問題に関する教育を行っていると思われませんか。
(11) 健康教育	㉖運動に対する意欲・関心を高め、積極的な体力作りを行っている。	㉖体育の授業や体育的行事を通して積極的な体力作りを行っていると思われませんか。
	㉗「健康」「食」「いのち」に対する意欲・関心を高める取組を積極的に行っている。	㉗給食指導など、積極的に食育に取り組んでいると思われませんか。
(12) 安全管理	㉘登下校の安全管理のため、各児童の登下校路等の集約ができています。	
	㉙各児童の登下校状況が確実にチェックされ、円滑に家庭連絡されている。	㉙ICタグによるチェック等、登下校の状況把握が確実にされていると思われませんか。
	㉚児童自らの危機回避能力の向上に努めている。	
	㉛警報発令時等の登下校指示が明確に家庭に伝わっている。	㉛「警報発令時等の登下校について」の内容についてご存知ですか。
	㉜各種避難訓練を教育課程に位置づけ、計画的に実施している。	㉜初等部では地震や火災などの避難訓練を計画的に実施していると思われませんか。
(13) 研修	㉝思考力育成や授業全般の指導力向上の研修を積極的に実施している。	㉝初等部の教員は授業研究などを通して授業力の向上に努めていると思われませんか。
	㉞思考スキルを取り入れた教科指導を積極的に試みている。	
	㉟研究発表会の成功に向けて全体で積極的に取り組んでいる。	㉟研究発表会は初等部の教育の推進に役立っていると思われませんか。
(14) 進路指導	㊱中等部進学に向けて高学年の児童や保護者に対し適切な情報を提供している。	㊱中等部進学に向けて必要な情報を得ることができたと思われませんか。(5,6年生保護者のみ)
(15) 入試広報	㊲計画的な入試・広報活動が行われている。	
・連携	㊳研修等を中心に関西大学との連携が積極的に行われている。	
	㊴教育後援会と適切な連携が行われている。	㊴初等部は教育後援会と緊密な連携がとれていると思われませんか。
	㊵学校と家庭との連絡や相談が必要に応じて適切に行われている。	㊵学校・学級からの連絡や相談が必要に応じて適切に行われていると思われませんか。

2016年度 学校評価アンケート 集計

■ よくあてはまる ■ ややあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ まったくあてはまらない







H28

H27

H28

H27

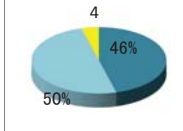
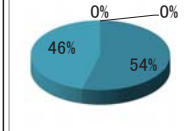
①計画的な入試・広報活動

教員

教員

全校保護者

全校保護者



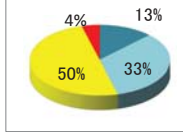
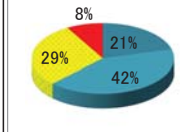
③研修を中心とした関西大学との連携

教員

教員

全校保護者

全校保護者



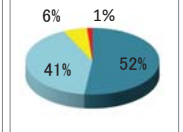
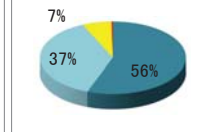
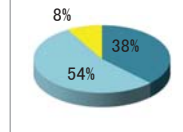
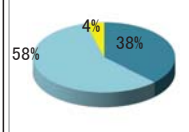
④教育後援会との緊密な連携

教員

教員

全校保護者

全校保護者



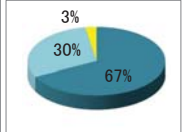
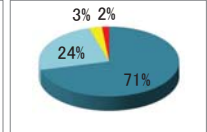
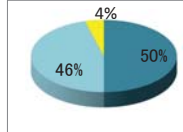
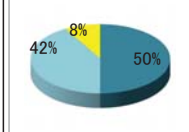
⑤学校や家庭との連絡や懇談

教員

教員

全校保護者

全校保護者



学校生活をふりかえって

名前 ()

入学からこれまでの学校生活をふりかえって、下の質問にこたえましょう。

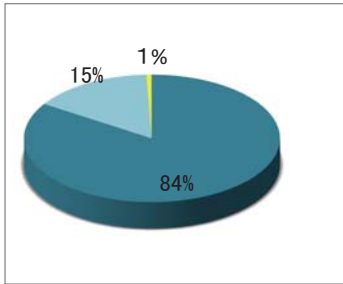
当てはまる番号に○をつけましょう。

	児童用質問	1よく当てはまる 2やや当てはまる 3やや当てはまらない 4全く当てはまらない			
		1	2	3	4
①	関西大学初等部に入学してよかったと思いますか。	1	2	3	4
②	学校は楽しいですか。	1	2	3	4
③	勉強をがんばっていますか。	1	2	3	4
④	思考力がついたと思いますか。	1	2	3	4
⑤	先生方は工夫した授業をしていると思いますか。	1	2	3	4
⑥	いろいろな本を読んだり、学習に本や資料を活用したりできましたか。	1	2	3	4
⑦	iPad やパソコンなどを、必要に応じて活用することができましたか。	1	2	3	4
⑧	運動会や文化祭などに積極的に取り組みましたか。	1	2	3	4
⑨	ルールを守って学校生活を送ることができましたか。	1	2	3	4
⑩	いじめやなかまはずれなどをしていませんか。	1	2	3	4

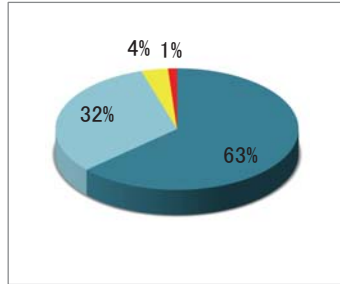
平成28年度(児童アンケート)

■ よくあてはまる ■ ややあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ まったくあてはまらない

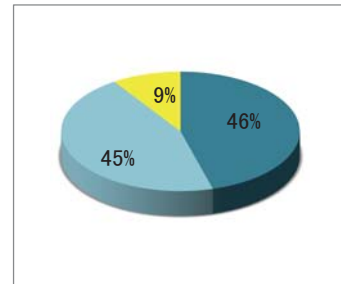
①関西大学初等部に入学してよかったと思いますか。



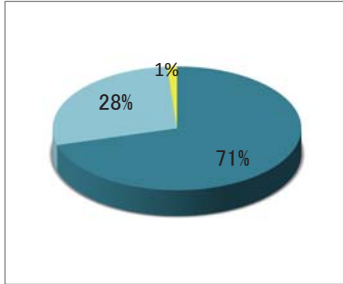
⑤先生方は工夫した授業をしていると思いますか。



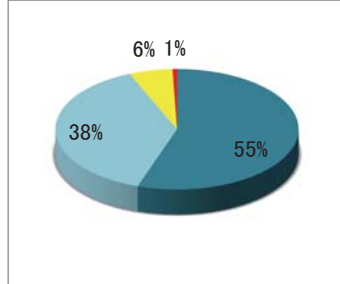
⑨ルールを守って学校生活を送ることができましたか。



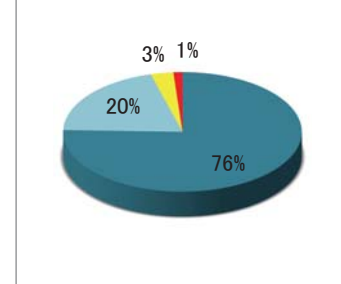
②学校は楽しいですか。



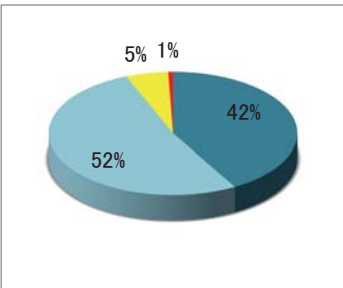
⑥いろいろな本を読んだり、学習に本や資料を活用したりできましたか。



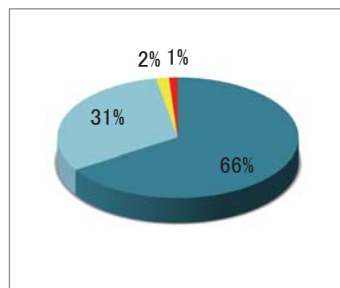
⑩いじめやなまはずれなどをしていませんか。



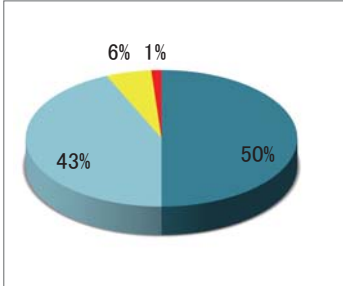
③勉強をがんばっていますか。



⑦iPadやパソコンなどを、必要に応じて活用することができましたか。



④思考力がついたと思いますか。



⑧運動会や文化祭などに積極的に取り組みましたか。

